

かけはし

会報 82号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:東條 裕志
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/



ご挨拶 ～明るい未来を目指して～

NPO法人全国LD親の会
 理事長 東條裕志

平成 27 年 6 月 13 日に行われた特定非営利活動法人全国 LD 親の会総会とその後の理事会で、理事の体制は変更せず、さらに 2 年間現行を維持することになりました。

会員の皆さんのお力を得ながら、私たちの子どもの将来が明るい未来になるような活動を行っていきたくと思っています。

さて、今年は、「発達障害者支援法」が施行されてから 10 年となります。発達障害者支援法は画期的な法律ではありますが、支援が期待していたほどは進んでいないようにも感じられます。超党派の国会議員で構成する「発達障害の支援を考える議員連盟」では、この 10 年の発達障害者支援の状況をもとに発達障害者支援法の改正を検討しています。全国 LD 親の会でも、いままで皆さんからいただいた要望などを伝えています。

また、来年 4 月には、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が施行されることになっています。そのため、各省庁で対応指針を定めるためのヒアリングや、パブリックコメントの募集などを行いました。全国 LD 親の会にも調査のための会議出席の依頼がありましたし、パブリックコメントについては、各親の会からも意見を出してもらうように評議員を通して皆さんにもお願いもしました。

支援については「人」の力が一番大切なのは当然ですが、全国各地で一定の支援を受けるためには、どうしても中央行政や立法の力が必要になります。全国 LD 親の会は圧力団体になるつもりはありませんが、皆さんの意見を適切に行政や立法に伝えていくことを目指しています。より良い支援の実現につなげていくため、是非、皆さんの幅広い意見や思いなどを各会・各ブロックを通して全国 LD 親の会までお届けください。

国がどんなことをしようと考えているかは、公開フォーラム等の行政解説を聞いたり、インターネットで各省庁のHPを見たりして知ることができます。それをもとに各地域の都道府県でも「国の方針に沿ってこんなことを行って欲しい」という声を上げることも可能です。知らなければ行ってもらえないかもしれません。

「行政や立法に発言をしたり、国の方針を背景に都道府県や市町村に何か要求をあげる」のは少し気が引けるかもしれませんが、自分の子どものためはもちろん、「困っているみんなのため」力を合わせて行動していきましょう。

皆さんの声が私たちの子どもの明るい未来につながるよう、お力添えをよろしく願い致します。

特定非営利活動法人全国LD親の会役員

理事長 : 東條裕志
 副理事長 : 井上育世、多久島睦美
 理事 : 梅野真澄
 評議員 : 大島善江、奥野由美、梶山幸子、児島恵
 斗内沢邦男、三輪覚子、吉田京子
 監事 : 丹藤登紀子、内藤聖子

特定非営利活動法人全国LD親の会 第8回 総会報告

日時:平成 27 年 6 月 13 日(土) 12:30-14:15

場所:ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)、1F パフォーマンス・スペース

総会員数46団体中、代表者出席26団体、委任状出席19団体の計45団体の参加の中、第1号議案～第3号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。

【審議事項】 第1号議案 平成26年度事業報告
 第2号議案 平成26年度決算報告および監査報告
 第3号議案 平成27年度役員選任(案)

研修会報告

日時:2015年6月13日(土) 14:30~16:30
 会場:ドーンセンター1F パフォーマンススペース
 テーマ:就労・就学における合理的配慮に必要な考え
 方と準備できること
 講師:岡 耕平 氏

(滋慶医療科学大学院大学専任講師・人間支援工学)

総会後の研修会には、70名ほどの参加がありました。

講師の岡先生は、障害等で困難をかかえた人の生活・学習・就労を支援するため、テクノロジーの活用や環境調整による具体的な支援方法について研究されています。また、2011年まで東京大学先端科学技術研究センターに所属され、DO-IT Japan プロジェクトにも関わっておられます。

今回の研修会では、「合理的配慮」について、背景にある考え方や障害観・能力観、合理的配慮を求める際の話し合いのポイントについて分かりやすくお話しいただきました。合理的配慮とは、その人の活動や社会参加を阻む社会的障壁を取り除くことであり、その方法はルール変更や代替手段等いろいろあります。「障害のある人の自立とは、支援(合理的配慮)の選択肢をたくさん持ち、自分で決めて、いろいろな人の力を借りて生きていくこと」「本人がうまく行く方法を見つけ、しくみ・システムを変えていくことが合理的配慮」というお話がとても印象に残りました。

合理的配慮は、当事者からの申し出と話し合いのもとに決められます。円満な合意形成のためには、「合理的配慮や障害理解などの基本的な前提を共有した上で、互いに納得できる目的(=いかに活動や参加ができるように環境や条件を調整するか)に向かって、根拠をもとに話し合うことが重要」とのことでした。例えば、『学校でタブレットを使わせてほしい』と配慮を申し出る際に、普段、使ったことがない…というのでは説得力がありません。実際に使った実績とその効果をきちんと説明できるよう、具体的な支援についての根拠を溜めて、話し合い(交渉)に望むことが大切とのことでした。

「合理的配慮」は新しい概念であり、身近な学校の先生や企業に理解してもらうまでには、まだまだ課題が山積んでいます。私たち当事者も一方的な権利主張をするのではなく、社会全体の理解が進むよう、学びを深めていきましょう。(多久島)

青年の交流会報告

日時:2015年6月13日(土) 13:00~19:00
 テーマ:「ハルカスに登ろう~地上300mの世界へ~」
 プログラム:13:00 ~ 17:00 集合~ハルカス300
 17:00 ~ 19:00 懇親会

今年も全国から32名の青年たちが集まりました。今回はハルカスの予約時間の関係で、集合場所のドーンセンターでしっかりと交流を深める事ができました。特徴ある、面白く楽しい自己紹介の後、プロジェクターを使って、「ハルカス」と「ピリケンさん」についても楽しく学び、総会会場では実施中の展示会作品を鑑賞後ハルカスへ。

ハルカス300(展望台)では、60階300mの高さから見えるものをチェックする「ハルカスラリー」をしながらそれぞれのペースで展望を楽しみました。

懇親会会場は、通天閣近くの”串カツどて焼き”のお店です。天王寺公園横の遊歩道、賑やかなお店が並ぶ新世界を通り到着。グループ毎に座り、乾杯。次々と運ばれるご馳走に皆さん大満足な様子でした。

担当の大阪「翼」の皆様、アイデアいっぱいの企画をして下さったコーディネーター、さり気なくしっかりと補佐下さったボランティアの皆様にご心より感謝致します。

集まれクリエイター 展示会開催

日時:2015年6月13日(土) 14:30~17:00
 会場:ドーンセンター1F パフォーマンススペース

全国LD親の会第8回総会にあわせて、「集まれクリエイター2015」を開催しました。親の会の子どもたちや青年たち14名24作品が会場に展示され、参加者たちの熱心に見入る姿が印象的でした。

作品は、小説・絵画・ちぎり絵・ステンシル・グラスデコ・コラージュパネル・木製人形・鉛筆画・フェルト絵本・箱庭・ペンダント・押絵・パソコン教室作品一覧と多岐にわたっており、その作品のすばらしさに感動したという感想が多く寄せられました。



懇親会報告

日時:2015年6月13日(土) 17:30~19:30
 会場:ゆいま〜る(ドーンセンター1F)

研修会終了後懇親会が行われました。

北海道から九州までの25団体46名に加え、来賓として、研修会講師の岡耕平氏、翌日講師の両川晃子氏を迎えての和やかな懇親会となりました。

各会紹介タイムは、飲み放題の酔いも回ってか皆さん饒舌舌で、お話はなんとも楽しく各会の個性がにじみ出るすばらしい内容で、全国のパワーを感じさせる懇親会でした。

(吉田)

**第14回全国LD親の会公開フォーラム
「これからの発達障害支援と合理的配慮
～共生社会に向けた支援のありかた～」**

日時: 2015年6月14日(日)10:30~17:30

会場: 追手門学院 大阪城スクエア 大手前ホール

参加者: 169名(保護者、教育・支援者関係者等)

日本は「障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)」を2014年に批准し、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が2016年4月から施行されます。その施行を前にして、共生社会における支援体制の在り方と「合理的配慮」についての共通理解を図っていくために、今回の公開フォーラムでは、講演と行政解説に加えて、ワークショップを企画しました。

**【基調講演】「発達障害のある子どもに見られる
読み書き障害の現状と教育的支援」**

**竹田 契一氏(大阪教育大学名誉教授・
大阪医科大学LDセンター顧問)**

竹田先生からは、8年目を迎えた特別支援教育の現状について問題提起をまず頂きました。また、障害者権利条約の批准にともなう合理的配慮の具体例として、教育分野では、平成23年度より大学入試の受験における配慮事例が増えていることが紹介されました。そして、なぜ学習が進まないのか、どこでつまづいているのか、なぜノートがとれないのかなどの読み書きに困難を示す子どもに対する「文字の読み書きを育てる支援」「音韻認識力を支える練習」「書字獲得の支援」の具体例をお話いただきました。事例紹介では、ディスレクシアの当事者を取り上げたテレビ番組の録画を流されました。ご本人のインタビューや再現ドラマもあり、大変わかりやすい内容でした。

**【行政解説】「特別支援教育・発達障害支援行政の
最新情報と合理的配慮」**

**井上 恵嗣氏
(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長)
畑 俊一氏(厚生労働省職業安定局雇用開発部
障害者雇用対策課地域就労支援室室長)**

文部科学省と厚生労働省の発達障害に対する取り組みや平成27年度予算の概要等について解説頂きました。

文部科学省からは、特別支援教育の現状及び障害者の権利に関する条約の対応についてお話し頂きました。中教審初等中等分科会報告では、「合理的配慮は一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるものであり、設置者・学校と本人、保護者により発達の段階を考慮しつつ、合理的配慮の観点を踏まえ、合理的配慮について可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供されることが望ましく、その内容を個別の教育支援計画に明記することが望ましい」とされています。

厚生労働省からは、障害者雇用の現状、改正障害者雇用促進法、同法に基づく差別禁止・合理的配慮提供の指針、障害者雇用対策の概要についてご説明頂きました。差別禁止・合理的配慮提供の指針のうち、発達障害に係る内容として「募集及び採用時には、面接時に、就労支援機関の職員等の同席を求めること。面接・採用試験について、文字によるやりとりや試験時間の延長等を行うこと。」「採用後は、業務指導や相談に関し、担当者を選定すること。業務指示やスケジュールを明確にし、指示を一つ一つ出す。作業手順について図表を活用したマニュアルを作成する等の対応を行うこと。出退勤時刻・休暇・休憩に関し、通院・体調に配慮すること。感覚過敏を緩和するため、サングラスの着用や耳栓の使用を認める等の対応を行うこと。本人のプライバシーに配慮した上で、他の労働者に対し、障害の内容や必要な配慮等を説明すること。」がある、との報告を頂きました。

**【講演&ワークショップ】「障害のある子どもの心理
心理的疑似体験**

**両川 晃子氏(信州大学付属病院、長野県スクール
カウンセラー、特別支援教育士SV)**

ワークショップでは、両川先生が障害のある子どもの心理を疑似体験し、一人一人のニーズを把握していくプログラムを用意くださいました。①注意集中が苦手な人の疑似体験とワーク、②説明する、聞いて〇〇するが苦手な人の疑似体験ワーク③会話が苦手な人の疑似体験等でしたが、初体験の方も多く思うようになかなか先に進みません。当事者の気持ちを疑似体験できる貴重な時間となりました。

- ☆☆☆☆参加者アンケートより抜粋☆☆☆☆
- ・竹田先生の講演で、「合理的配慮とはフェアであること」「フェアな競争ということ」、たいへんわかりやすかった。
 - ・教員のやるべきことはたくさんある。学校に持ち帰って実践、伝達したい。
 - ・多方面にわたる話が一度に聞ける良い機会でした。
 - ・現場での理解はまだ不十分だと感じています。対応できるのか不安が残ります。
 - ・「支援が必要な方へやり過ぎず必要に応じた支援を」という言葉が印象的でした。支援者として何が必要か考えたい。
 - ・合理的配慮という考え方に初めて触れました。子どもたちの本来持っている能力を發揮できるようにするための療育という捉え方ができるのかなと感じました。
 - ・配慮をして頂くために子どもの現状を知ることが大切なことがわかりました。学校の先生や社会(会社)にも「合理的とは？」をしっかり知ってほしい。
 - ・ワークショップは色々体験ができて良かったです。

(斗内沢)

全国会員の子どもの構成調査

正会員団体 46 団体の集計

< 総括表 >

区分	人 数					男女比	
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	24	6	30	1.0%	-21.1%	80.0%	20.0%
小学校	433	115	551	18.9%	-8.3%	78.6%	20.9%
中学校	396	107	504	17.3%	-8.4%	78.6%	21.2%
高校相当	362	117	482	16.6%	-8.7%	75.1%	24.3%
高卒相当	1,063	277	1,343	46.2%	6.3%	79.2%	20.6%
合計	2,278	622	2,910	100.0%	-2.4%	78.3%	21.4%

(男女未記入10名)

< 小学校 >

区分	男	女	計
小1	39	12	51
小2	60	16	76
小3	58	15	74
小4	73	21	96
小5	96	21	117
小6	107	30	137
計	433	115	551

(「小3、小4」で男女未記入3名)

< 中学校 >

区分	男	女	計
中1	112	31	144
中2	156	39	195
中3	128	37	165
その他	0	0	0
計	396	107	504

(「中1」で男女未記入1名)

< 高校相当 >

区分	男	女	計
高1 (高専1年)	120	36	157
高2 (高専2年)	116	36	154
高3 (高専3年)	95	31	126
単位制高校	27	11	38
その他	1	2	3
就労・在宅等	3	1	4
高校相当計	362	117	482

(「高1、高2」で男女未記入3名)

< 高校卒業相当以上 >

区分	男	女	計
大学・短大	144	28	173
高等専門学校4年～	2	0	2
特別支援学校専攻科	5	2	7
専門学校	55	14	69
就労(一般)(週20h以上)	168	26	194
就労(障害枠)(週20h以上)	291	78	371
就労(一般)(週20h未満)	4	4	8
就労(障害枠)(週20h未満)	25	6	31
職業訓練校・委託訓練	18	1	19
就労移行支援	64	17	81
就労継続支援 A型	50	15	65
就労継続支援 B型	57	18	75
授産・作業所	12	5	17
その他(高校在学)	15	8	23
在宅	102	36	138
不明	51	19	70
高校卒業相当計	1,063	277	1,343

(「大学・短大、就労(障害枠)20時間以上」で男女未記入3名)

< 小学校 >

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	185	34.3%	-0.5%
普通級(通級利用有り)	99	18.3%	-18.2%
特別支援学級	224	41.5%	8.7%
特別支援学校	11	2.0%	37.5%
その他・不明	21	3.9%	-73.8%
計	540	100.0%	-10.1%

< 中学校 >

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	215	43.2%	4.4%
普通級(通級利用有り)	68	13.7%	21.4%
特別支援学級	172	34.5%	-14.0%
特別支援学校	20	4.0%	-16.7%
フリースクール等	5	1.0%	150.0%
その他	8	1.6%	-42.9%
不明	10	2.0%	-79.2%
計	498	100.0%	-9.5%

＜高校生の状況＞

	単位制以外						単位制高校						人数計	人数比率
	国・公立			私立			国・公立			私立				
	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制		
普通科	61	7	6	94	3	39	4	10	0	17	0	22	263	54.9%
専門学科 (商業・工業・農業等)	35	2	2	11	1	0	2	0	2	0	0	0	55	11.5%
総合学科	8	0	0	5	0	1	1	0	0	1	0	1	17	3.5%
高等専門学校 (1～3年)	0			0									0	0.0%
高等特別支援学校・ 特別支援学校高等部	105	0	0	0	0	0							105	21.9%
高等専修学校	2	0	0	6	0	9							17	3.5%
専門学校	0	0	0	3	0	0							3	0.6%
フリースクール													0	0.0%
その他													4	0.8%
不明													15	3.1%
計	211	9	8	119	4	49	7	10	2	18	0	23	479	100.0%

	人数	比率
国・公立	247	53.7%
私立	213	46.3%

	人数	比率
単位制以外	400	87.0%
単位制	60	13.0%

	人数	比率
全日制	355	77.2%
定時制	23	5.0%
通信制	82	17.8%

親の会設立準備を進めています！東京東部地域「学び方の違う子の親の会 ルピナス」

設立記念第1回講演会を開催します。

講師：上野一彦先生

日時：平成28年2月20日(土) 14時～16時

会場：タワーホール船堀 研修室

江戸川区船堀4-1-1(都営新宿線船堀駅)

昨年度開催した3回の連続講座で呼びかけ、設立準備会に賛同した8人のメンバーが、定期的集まり、話し合いを重ね、ついに「学び方の違う子の親の会 ルピナス」が立ち上がりました。メンバーの皆さんは、お子さんが受験生であったり、不登校に悩んでいたりと、それぞれに事情を抱えながらの参加ですが、親の会を立ち上げたいという強い気持ちを持ってくださり、とにかく一歩を踏み出そうという意見でまとまりました。

3月7日の第1回目の集まりで初顔合わせをし、自己紹介やお子さんの様子をお互いに語り合う時間を持ちました。

第2回(5月10日)にも、近況報告を中心にしながら、どのような会にしたいかというテーマで話し合い、仲間作りをするうちに、「多くの仲間」という花言葉をもつ「ルピナス

」という花の名前が会の名前(愛称)になりました。

第3回(8月1日)の集まりでは、設立総会に向けた具体的な相談を始め、事務局・会計・連絡担当等の役割分担を決めました。しかし、この時点でも会員確保が課題となり、設立総会の前に講演会を開催し、もう一度親の会をPRして、会員を増やしたいと考えました。

「ルピナス」としての活動の、記念すべき第1回講演会の講師は、上野一彦先生が快く引き受けてくださいました。親や親の会に向けた力強いメッセージを込めていただけるものと期待しています。親だけでなく、教育・支援関係の皆様方にも多数ご参加いただけると幸いです。

第4回(9月27日)には、ランチを楽しみつつ交流を深めると共に、会の正式名を考えながら、どんな会にしたいのかを再確認することができました。

第5回(10月17日)には、3人のみの参加でしたので、今後の進め方の打ち合わせをしました。

正式に発足するために、もう一頑張りというところまで来ましたので、若いお母さん達が汗を流して動いています。私達全国LD親の会も、同じ親として、そして少しか先輩としての立場で、親の会の大切さを伝えながら、応援していきたいと思っています。(三輪)

一般社団法人日本LD学会 第24回大会報告

2015年10月11日(日)～12日(月・祝)

会 場:福岡国際会議場

テーマ:「学びの継続と共生社会

ーアセスメントと学習支援を基盤としてー」

日本LD学会の会員数は現在8200人を超え、教育分野でも最大規模の学会となりました。今年の大会は、福岡国際会議場にて開催され、2500名もの参加がありました。2日間にわたり教育講演・大会企画シンポジウム・自主シンポジウム等62講座が開催され、ポスター展示による研究発表が160枚と、どの会場も熱気に包まれていました。

●特別講演「共同性と依存先の分散～当事者、家族そして教師へのメッセージ～」

熊谷晋一郎氏(東京大学先端科学技術研究センター／小児科医)より、「自立とはなんだろう?」との投げかけがありました。私たちは『自立とは、依存しないで自分でできるようにすること』と考えがちですが、熊谷先生は「すべて自分でやっている人はいない。障害とは、多数派にあわせた環境の中で依存先が限定されている状態のこと。依存先(様々な支援の選択肢)を増やすことこそが自立である。」と言われました。一人ひとりの特性・ニーズにあった多様な支援(選択肢)が認められる環境(社会)になれば、障害のある人もっと生きやすくなると感じました。

また、熊谷先生が取り組んでおられる「当事者研究」も大変興味深いものでした。アスペルガー症候群の当事者である綾屋紗月さんとの共同研究で、発達障害の「コミュニケーションが苦手」「こだわりがある」「感覚過敏」といった定義だけでは伝わらない、当事者ならではの感覚について詳細に述べられました。「自分の認知をぴったり表す言葉がない。」「自分のニーズを言語化できないと、合理的配慮を受けることができず格差が広がってしまう。」というお話は、まさに当事者の切実な声であると心に響きました。親でも、本人の困難さを実感を持って共感することは難しく、熊谷先生のお話を聞いて、「本人の特性を深く理解する」とはどういう事なのか考えさせられました。

●大会企画シンポジウム①

「高等学校における特別支援教育の現状と課題～入学から進路までを踏まえた支援の充実に向けて～」

佐賀県・長崎県・熊本県の高校の学習支援(授業のユニバーサル化)や、就労支援・相談支援の先進的な取り組みについて伺いました。発達障害・不登校の生徒に特化したコースを設けたり、在学中から積極的にキャリア教育に取り組む高校も増えています。

普通高校の課題として、『本人の自己理解・自己受容ができていない訳ではない』ことが挙げられましたが、中高連

携により支援を引き継ぐことが重要であることや、在学中からの就労アセスメント等、専門機関との連携による丁寧な職業準備支援によって、障害理解・自己受容が促進され、早期離職の予防につながるなどの報告もありました。

●大会企画シンポジウム⑤

「ソーシャルスキルからサバイバルスキルへ」

幼児期・学齢期のSSTや大学での社会移行支援プログラムについて話題提供がありました。「社会生活では、学校生活で身につけたスキルとは別に、“社会で上手く適応していくスキル”が必要となる。社会移行と就労自立を見据えたスキル(サバイバルスキル=困った時に乗り切る方法を知り、使えること)が必要。」とお話は、社会人となった子どもをもつ自身の体験をふまえ、とても説得力のあるものでした。「発達障害の学生の就職率は30%を切り、離職率も37.5%と高い。」という厳しい現状についてのお話もあり、インターシップ等社会経験を積むための実践的な取り組みが広がってほしいと思いました。

就労支援・就労継続は大きな課題となっており、親の会でも継続的に取り組んでいきたいと考えています。

(多久島)

親の会企画シンポジウム

日 時:2015年10月12日(月) 9:30～11:00

テーマ:特別支援教育支援員の活用について

～支援員養成講座から見えてきた課題～

企 画 者: NPO法人全国LD親の会

司 会 者: 井上 育世(NPO法人全国LD親の会)

話題提供者:内藤 孝子(NPO法人全国LD親の会)

高畑 英樹(神戸市立谷上小学校

きこえとことばの教室)

指定討論者:上野 一彦(一般財団法人特別支援教育士資格認定協会)

今年度は、全国LD親の会が平成21年から取り組んできた「特別支援教育支援員養成講座」について取り上げました。本事業における今後の課題を通して、親の会の活動のあり方についても考えさせられました。

●話題提供1「親の会が取り組んだ特別支援教育支援員の養成」

はじめに、支援員養成事業を立ち上げてきた内藤氏から、本事業の説明と今後の課題について話していただきました。

講座には支援員だけでなく、学生ボランティア、保育士、放課後等デイサービス事業所の職員、学習塾の講師等も受講しており、本事業が学校だけでなく、地域での障害のある子どもたちの学びの保障や、適切なサポートの広がり

にも有効であるという報告がありました。また、本事業が全国各地での学習支援員、支援(介助)員、ボランティア支援員等の養成研修のあり方の標準事例として活用されることへの期待と、各地での定期的な養成講座の実施、受講生のフォローアップ研修のプログラム開発等が必要であるという提言をいただきました。

●話題提供2「特別支援教育支援員活用の現状と支援員養成の今後の課題」

次に、特別支援教育支援員養成講座 in 神戸で「特別支援教育コーディネーターからのレクチャー」を担当していただいた高畑先生に、兵庫県下を中心とした現役支援員側のニーズ調査の結果から明らかになった以下3点の「支援員が抱えている課題」についてお話していただきました。

1.「支援する児童・生徒との関係作りや支援方法」

学校側から、事前の情報が少なく、いきなり担当する児童・生徒を任されて、教室の中でどう動いてよいのか迷うなど、支援方法がわからない。

2.「児童・生徒の担任との連携」

担任と支援内容の共通理解や意見を交わす時間が充分取れず、日々の支援が適切であるか不安を抱えている。

3.「支援員同士の情報交換の機会の乏しさ」

多くの学校では一人配置が多く、同じ職種の人が学校にいないので悩みを相談しにくく、学校の中での位置づけや地位が曖昧なことがある。

しかし、このような課題がある中でも、時間を見つけて担任に話しかけたり、メモや連絡ノートを通じて情報交換を心掛けるといった工夫をし、児童・生徒たちとの関わりで得られる喜びを励みとして、仕事に誇りをもって、支援員としての仕事に取り組んでいるという支援員の現場の声を報告していただきました。支援員を受け入れる学校側として、支援員活用の現状についてお話いただく中で、支援員養成講座の今後の課題として、「支援員同士をつなぐ場」として修了生のフォローアップが必要ではないかという提言もいただき、今後のフォローアップ研修プログラム策定についての大きな指針になりました。

●指定討論

指定討論は、全国LD親の会が支援員養成事業を始める機会や養成講座のカリキュラム策定等で多くのアドバイスをいただいた上野先生にお願いしました。「特別支援教育支援員の活用」という取り組みは、特別支援教育の推進に必要な教員の十分な配置への過程と捉え、特別支援教育体制をどう充実させていくかといった最終目標を常に持つておく必要があるというお話をいただきました。全国LD親の会の活動についても、LD等発達障害のある子

どもたちへの教育の充実のために、もっと戦略を持って進めていくことが大切だという大きな宿題もいただきました。

世の中の状況は常に動いており、親の会に求められる役割も変化していきます。親の会という組織が基本的に持ち続けていく普遍的な目標とその目標に向かってどう動いていく必要があるのかを見直していく時期にあると改めて考えさせられました。

(井上)

親の会紹介ポスター展示



今年度の親の会ポスター展示には全国から16団体の参加をいただきました。年々、カラフルでバラエティに富んだポスターへと進化しているようです。各会の活発な活動や、特色ある活動を紹介していただき、一般の方も時間をかけて観覧されていました。今回はまた、会員の子供たちの作品も展示させていただきました。急な企画でしたが、よい作品発表の場になりました。会場に余裕がある場合は、今後も開催していければよいのではないのでしょうか。

親の会懇親会

10月11日(日)、LD学会一日目の終了後に全国LD親の会懇親会を開催しました。今回の日本LD学会は、佐賀大学の開催でしたが、会場は福岡ということで福岡「たけのこ」さんに懇親会を企画していただきました。9団体34名の参加で、それ以外に学会主催の懇親会に行かれる前に全国LD親の会理事長の東條さんと副理事長の井上さん、多久島さんにも参加していただき、ご挨拶と乾杯のご発声をしていただきました。

学会が開催された福岡国際会議場から海沿いに歩いて10分ほどのベイサイドプレイス博多は夕焼けの中、潮の香、波の音、行き交うフェリーを眺めながら音楽を楽しむ、そんな素敵な空間でした。その一角にある「リタの農園」が今回の懇親会の会場でしたが、地元産のお野菜をたっぷり使ったビュッフェスタイルのレストランで、たくさんのメニューのすべてが美味しく、参加された皆様も最後には一様におなかを抱えて満足気でした。就労継続支援A型施設のレストランで、社長さんをはじめスタッフの皆さんが「受給者から納税者へ！」を合言葉に活動されています。素敵な社長ご夫妻にも、この懇親会の為にいろいろと心遣いをいただき、素敵な懇親会となりました。「たけのこ」さん、企画運営、本当にありがとうございました。

皆様、来年の横浜大会で再びお会いしましょう。(奥野)

特別支援教育支援員養成事業

今年度は、6月27・28日にボランティア支援員養成講座in札幌(共催:NPO法人北海道学習障害児・者親の会クローバー)、8月29日から11月28日にかけての8日間、特別支援教育支援員養成講座in大阪(共催:大阪LD親の会「おたふく会」)を実施して、たくさんの方にご参加いただきました。ボランティア支援員養成講座は、1月10・11日に北九州市でも開催します。

1. ボランティア支援員養成講座 in 札幌

- ◆日程:2015年6月27日(土)、28日(日)
- ◆会場:札幌市教育文化会館 研修室301号室
- ◆コース:ボランティア支援員コース
講習:2日間(9科目/13.5時間)
- ◆講師:特別支援教育士SV中心の有資格者11名
- ◆プログラム:

第1日:6月27日(土) 9:10~17:50

	科目
	オリエンテーション
1	特別支援教育概論 室橋春光氏(北海道大学名誉教授)
2	ボランティア支援員としての業務や心構え 立田祐子氏(北海道立特別支援教育センター 知的障害教育室研究員)
3	主な障害の特性と理解 小泉雅彦氏(ギフテッドLD発達援助センター)
4	学校・学級での支援の仕方、担任との連携の仕方 小川央氏(札幌市教育センター特別支援教育 相談担当指導主事)
5	子どもへの対応の基本 桂野文良氏(小樽市立潮見台小学校)

第2日:6月28日(日) 9:10~17:00

6	保護者への対応 長田じゅん子(NPO法人北海道学習障害児・ 者親の会クローバー)
7	障害のある子どもの心理 山下公司氏(札幌市立北九条小学校)
8	子どもの特性と対応方法(1) 社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポ ート方法+ワーク 齊藤真善氏(北海道教育大学准教授)
9	子どもの特性と対応方法(2) 自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法 +ワーク 田近健太氏(札幌市立北都中学校) 米内山康嵩氏(江別市立大麻中学校) 足立明夏氏(札幌市立中島中学校)

- ◆共催:NPO法人北海道学習障害児・者親の会クローバー
- ◆後援:北海道教育委員会・札幌市教育委員会・
S.E.N.S(特別支援教育士)の会北海道支部会
- ◆受講者:53名(修了52名)
- ◆受講者の属性
・親の会会員3名(うち支援員1名)
・一般50名(支援員26名・デイサービス等支援員8名、
教員・OT・PT等4名、保護者7名・他5名)
- ◆受講者の感想より
・多くの支援方法、とらえ方、当事者の気持ちを知ることが
できました。もっとワーク中心だと主体的に参加できると思
います。
・子ども1人1人の特性や、背景などに敏感になり、将来
自信をもって社会に出られるようにしてあげたいと思いま
す。
・聞く時間が長いので、もう少し参加型の講座があるとうれ
しいです。
・フォローアップか受講者向けの単発講座をやってほし
い。
- ◆講座受講満足度
「とても満足している」76.9% 「やや満足している」21.2%
「未記入」1.9%



2. 特別支援教育支援員養成講座 in 大阪

- ◆日程:2015年8月29日(土)~11月28日(土)
- ◆会場:大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーン
センター)
- ◆コース:
・支援員コース[講習:6日間(21科目/28時間40分)]
・学習支援員コース[講習:8日間(27科目/39時間40分)]
- ◆講師:
特別支援教育士SV中心の有資格者15名
- ◆プログラム
第1日:2015年8月29日(土) 9:40~16:50
(支援員コース・学習支援員コース共通)

科目	
	オリエンテーション
1	学校・学級での支援の仕方 小田浩伸氏(大阪大谷大学)
2	担任との連携の仕方 小田浩伸氏(大阪大谷大学)
3	子どもへの対応の基本 菅廣みさき氏 (一般社団法人発達支援ルームまなび)
4	障害のある子どもの心理 菅廣みさき氏 (一般社団法人発達支援ルームまなび)

第5日:2015年10月24日(土)10:30~16:10
(支援員コース・学習支援員コース共通)

16	子どもの特性と対応方法(A)-⑤ 介護・介助の基礎、移動介助 小田浩伸氏(大阪大谷大学)
17	特別支援教育コーディネーターからのレクチャー 今村佐智子氏(一般社団法人発達支援ルームまなび、プール学院大学学生支援センター)
18	現役支援員からのレクチャー・ワーク

第6日:2015年10月25日(日)10:30~16:10
(支援員コース・学習支援員コース共通)

第2日:2015年8月30日(日)9:30~16:30
(支援員コース・学習支援員コース共通)

5	特別支援教育概論 竹田契一氏(大阪教育大学名誉教授)
6	特別支援教育支援員の業務 大谷和夫氏(子育てサポートIdeCAT)
7	特別支援教育支援員としての倫理・心構え 大谷和夫氏(子育てサポートIdeCAT)
8	主な障害の特性と理解(1) 樋口一宗氏(兵庫教育大学大学院)
9	主な障害の特性と理解(2) 樋口一宗氏(兵庫教育大学大学院)

19	子どもの特性と対応方法(A)-⑥ 聴覚障害 森田雅子氏(大阪市立聴覚特別支援学校)
20	子どもの特性と対応方法(A)-③ 社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 伊丹昌一氏(梅花女子大学)
21	子どもの特性と対応方法(A)-④ 行動面の困難とサポート方法 ロールプレイング、グループ討議 伊丹昌一氏(梅花女子大学)
-	修了式(支援員コース)

第3日:2015年9月12日(土)9:30~16:20
(支援員コース・学習支援員コース共通)

10	保護者への対応 井上育世(NPO法人全国LD親の会)
11	子どもの特性と対応方法(A)-⑦ 視覚障害 松下幹夫氏(元大阪府立視覚支援学校)
12	ペアレント・トレーニングの視点(1) 米田和子氏(NPO法人 ラヴィータ研究所 子ども発達相談センター・リソース「和」)
13	ペアレント・トレーニングの視点(2) 米田和子氏(NPO法人 ラヴィータ研究所 子ども発達相談センター・リソース「和」)

第7日 2015年11月14日(土)9:30~16:20
(学習支援員コース)

22	子ども達に接するときのポイント 西岡有香氏(大阪医科大学LDセンター)
23	ロールプレイング、グループ討議 西岡有香氏(大阪医科大学LDセンター)
24	学習面の困難とサポート方法(4) 教材・教具の利用方法 ワーク 山田充氏(堺市立日置荘小学校)

第4日:2015年10月18日(日)9:30~16:50
(支援員コース・学習支援員コース共通)

14	子どもの特性と対応方法(A)-① 自立生活面の困難とサポート方法 松久眞実氏(プール学院大学)
15	子どもの特性と対応方法(A)-② 学校生活面での困難とサポート方法 松久眞実氏(プール学院大学)

第8日 2015年11月28日(土)9:30~16:20
(学習支援員コース)

25	学習面の困難とサポート方法(1) 読み書きの困難とサポート方法 村井敏宏氏(奈良県平群町立平群小学校)
26	学習面の困難とサポート方法(2) 言葉(聞く、話す)の困難とサポート方法 村井敏宏氏(奈良県平群町立平群小学校)
27	学習面の困難とサポート方法(3) 算数の困難とサポート方法 ワーク 栗本奈緒子氏(大阪医科大学LDセンター)
-	修了式(学習支援員コース)

- ◆共催:大阪LD親の会「おたふく会」
- ◆後援:大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・堺市教育委員会
- ◆受講者:支援員コース:27名(修了者24名)
学習支援員コース:53名
- ◆受講者の属性
- ・関わり:保護者41名 他39名
- ・職業:支援員13名 デイサービス等支援員14名、
教員7名・保育士5名、生活支援員9名・学習塾3名・
その他29名(学童指導員・言語聴覚士等)



昨年度まで、学習支援員コースのお申し込みは教員免許所持者の方に限り受け付けていましたが、昨今の状況を鑑み、今年度からは現在子どもたちの学習に関わっ

ている方もご参加いただけるよう変更しました。

本講座は、特別支援教育士SVを中心とした講師によるLD・ADHD等発達障害に関する充実した内容の講義に加え、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害についての講義も含まれており、障害児の支援全般について学ぶことができます。昨今は、支援員のみならず、児童発達支援・放課後デイサービスなどで支援に当たっている方々のご参加も多くなりました。障害のある子どもたちの適切な支援へと結び付けていただきたいと思います。

○●○○○ 今後の予定 ○●○○○

ボランティア支援員養成講座 in 北九州

- ◆コース:ボランティア支援員コース

[講習:2日間(10科目/12.5時間)]

- ◆日程:

第1日 平成28年1月10日(日)9:10~17:20

第2日 平成28年1月11日(月・祝)9:00~17:00

- ◆会場:

西日本工業大学小倉キャンパス 3F 303 講義室

- ◆主催:NPO法人全国LD親の会

- ◆共催:北九州LD等発達障害親の会「すばる」

- ◆後援:福岡県教育委員会・北九州市・

北九州市教育委員会

(井上)

サポートツール・データベース事業

子どもが自分に合ったサポートツールを使用していくことは、子ども自身が自分のことを知り、自分に合った学習方法を手に入れて、自ら学んでいく力をつけていくことになり、本人が自己理解を進めていく道筋につながっていきます。弊会では、発達障害のある子ども達が自分の生活・人生をいきいきとしたものにしていくために、「サポートツール」についての活動を進めています。

今年度は名古屋で下記研修会を開催します。

教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」の開催 サポートツール全国キャラバン 2015 in 名古屋

- *日時:2016年1月10日(日)10:00~16:30(受付9:30)
- *会場:名古屋市高齢者就業支援センター5階大会議室
- *参加費:一般1,500円(全国LD親の会会員1,000円)
- *定員:100名
- *主催:NPO法人全国LD親の会
- *共催:あいちLD親の会かたつむり・あいち発達障害者支援センター・名古屋市発達障害者支援センター
りんくす名古屋

- *後援:愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・一般社団法人日本LD学会・一般社団法人日本作業療法士協会・一般社団法人愛知県作業療法士会・日本感覚統合学会・愛知特別支援教育研究会・発達OTネットワーク@ASI

*プログラム

講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」~使い方が変わる教材の有効性~
講師:山田充氏

(特別支援教育士スーパーバイザー)

講演2「作業の工夫で子どもたちを元気に!」
~発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫~

講師:丹葉寛之氏

(藍野大学医療保健学部作業療法学科講師・大阪府作業療法士会発達部門代表)

ワークショップ:ビデオ・資料をもとにグループごとに具体的な支援方法を考えます。

(本講座は定員に達しましたので、既に申し込みを締め切っています)

(井上)

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDnet) より

日本発達障害ネットワーク(JDDnet)は、一体何を行っているところなの？どんなところなの？という皆様の疑問に今回はお答えします。

① センターオブセンター:

発達障害関係の全国および地方の障害者団体や親の会、学会・研究団体、職能団体等で構成された幅広いネットワークのため、行政等で発達障害の調査を行う際に、JDDnet に意見を求められることが多くなっています。(障害者差別解消対応のヒアリングで全国LD親の会は文部科学省から依頼を受けましたが、JDDnet は文部科学省、厚生労働省、内閣府等と多くの依頼が来ていました。)

② 出版:

学会・研究団体の先生方が参加しているので、「発達障害年鑑」などという硬い本も出しています。今後、皆様に親しみやすい本も出版予定です。

③ 講習会・講演会:

エリアネットワーク(JDDnet▲▲)での講演会などを行っています。発達障害についての講習会では、教育・保育向けの人材育成講習会の他に企業向けの講習会も企画しています。

④ 多職種連携:

いろいろな職能団体が参加しているため、発達障害の支援に関して職能団体間で連携を図っていかうという動きが出てきています。各方面の支援のプロが連携して支援をすることが、どこでも現実のものになるかもしれません。

⑤ 認証事業:

最近、発達障害者へのサービスを提供する事業所が急速に増えています。また「発達障害が治る」といった広告を目にすることもあります。このような施設が本当に発達障害のことを理解しているのか、支援に必要な一定の水準に達しているのかを見極める仕組みを考えています。

7月26日に認証事業のためのパネルディスカッションを行い、認証事業を行う上での課題や要望をまとめています。ただ認証を受ける施設側は、認証を受けることに対して温度差があり、多くの施設が認証を得るには時間がかかるかもしれません。

最後に運営に関してですが、7月5日神戸でファンディングフェアを行い、自主財源確保のための資金集めを行いました。全国LD親の会の「おたふく会」と「たつの子」の会員がスタッフとして参加し、成功裏に終わりました。両会のスタッフの仕事ぶりは、JDDnet から絶賛されていました。(東條)

全国特別支援教育推進連盟 より

10月8日に全国特別支援教育推進連盟 第3回理事会が開催されました。来賓として文部科学省初等中等教育局特別支援教育課企画官 齊藤慶一郎先生より、差別解消法対応指針・合理的配慮について解説していただきました。障害者差別解消法の平成28年4月1日施行にむけて、対応指針(ガイドライン)が公表されました。NPO 法人全国LD親の会も、文部科学省「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の実施に関する調査研究協力者会議」に、委員として参加しました。

障害者差別解消法は、障害児・者が他の人と平等に教育を受けられるよう教育機関は入試や授業において、個別の事情に応じた変更や調整をしなければならないと定めています。(民間事業者は努力義務) 対応指針では、学校などにおける「不当な差別的取扱い」の具体例として、「(施設やそれらの)サービスの利用をさせないこと」「学校への入学の出願の受理、受験、入学等を拒むこと」「試験等において合理的配慮の提供を受けたことを理由に、当該試験等の結果を学習評価の対象から除外すること」などを例示しています。その一方で、「通級による指導」や特別支援学級などで「特別の教育課程を編成すること」は

差別的な取り扱いにはならないとしています。

また、合理的配慮の具体例としては「聴覚過敏の児童生徒等のために教室の机・椅子の脚に緩衝材を付けて雑音を軽減する、視覚情報の処理が苦手な児童生徒等のために黒板周りの掲示物等の情報量を減らすなど、個別の事案ごとに特性に応じて教室環境を変更すること」「読み・書き等に困難のある児童生徒等のために、授業や試験でのタブレット端末等のICT機器使用を許可したり、筆記に代えて口頭試問による学習評価を行ったりすること」などが挙げられています。ただし、国公立学校では合理的配慮の提供は法的義務ですが、私立学校などでは努力義務とされています。

なお、合理的配慮の実践事例は、国立特別支援教育総合研究所のHP「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」(『インクルDB』で検索)をご参照下さい。

合理的配慮の内容は個別の話し合いによって決定されます。法律ができたからと言って、一気に支援が進む訳ではありません。どのような支援(合理的配慮)を求めることができるのか、まず保護者が学び、親の会としても理解啓発に努めていきたいと考えています。(多久島)

●NPO法人全国LD親の会 活動報告

- 4月12日 JDDnet 第1回理事会(東條)
- 4月14日 「かけはし81号」発行
- 4月23日 JDDnet へ平成28年度予算要望提出
- 4月25日 JDDnet ファンドレージングフェア第3回準備会(井上)
- 4月27日 文部科学省・厚生労働省へ平成28年度予算要望送付
- 5月08日 全国特別支援教育推進連盟第1回理事会(多久島)
- 5月10日 東京東部地域第2回親の会設立準備会(内藤・三輪)
- 5月15日 6月02日 7月16日 発達障害の支援を考える議員連盟主催「『発達障害者支援法』改正についての検討会」(東條・斗内沢)
- 5月17日 第25回理事会(みなし決議)
- 5月19日 朝日の月醸金エントリー
- 5月22日 全特連に「特別支援教育関係に予算に関する要望事項」を送付
- 5月23日 平成26年度事業監査(丹藤・吉田・東條・増田)
- 5月23日 第4回JD総会(東條)
- 5月23日 JDDnet ファンドレージングフェア第4回準備会(井上)
- 6月07日 JDDnet 代議員総会(東條・三輪)第2回理事会(東條)
- 6月13日 NPO法人全国LD親の会第8回総会、研修会、第20回評議員会、第26回理事会
(大阪府立男女共同参画・青少年センター・ドーンセンター)
- 6月13日 NPO法人全国LD親の会青年の交流会(大阪)
- 6月14日 NPO法人全国LD親の会第14回公開フォーラム(追手門学院大阪城スクエア大手前ホール)
- 6月17・30日 7月7・21日 文部科学省 障害者差別解消法に関する調査研究会議(東條)
- 6月24・29日 高等学校教科書での発達障害に関する記載内容についての質問書を文科省と教科書会社に提出
- 6月25日 全特連に平成28年度予算要望提出(多久島)
- 6月27・28日 ボランティア支援員養成講座 札幌(児島)
- 7月01日 全国特別支援教育推進連盟第2回理事会(多久島)
- 7月05日 JDDnet ファンドレージングフェア(井上・吉田)
- 7月07日 全国特別支援教育推進連盟第2回理事会(三輪)
- 8月05日 9月28日 10月28日 11月18日 JDDnet第11回年次大会実行委員会(梶山)
- 8月13日 日本財団監査(井上・増田)
- 8月29・30日 9月12日 特別支援教育支援員養成講座 大阪(井上・吉田)
- 9月27日 JDDnet 第3回理事会(東條)
- 10月08日 全国特別支援教育推進連盟第3回理事会(多久島・三輪)
- 10月11・12日 日本LD学会第24回大会(井上・多久島・東條)
- 10月18・24・25日 11月14・28日 特別支援教育支援員養成講座 大阪(井上・吉田)
- 11月29日 JDDnet第11回年次大会(梶山・東條) JDDnet 第4回理事会(東條)

●第25回理事会報告

日時:2015年5月17日(日) 17:10-18:40 出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志

- [議案] 1. NPO法人全国LD親の会 平成27年度活動方針及び予算案を全員一致で承認した。
2. NPO法人全国LD親の会 第8回総会に付議する平成26年度事業報告・決算報告、及び平成27年度役員案を全員一致で承認した。

●第26回理事会報告

日時:2015年6月13日(土) 20:30-21:00 出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志

- [議案] 1. 理事長・副理事長の互選を行い、東條裕志が理事長、井上育世と多久島睦美が副理事長となることを全員一致で承認した。